



▷▷ 3

昨年6月、勤務先の九州工業大の留学生らが集まるパーティーで、通訳ボランティアにならないかと飯塚大会の関係者に誘われた。初参加を決め、「選手たちが安心して試合に集中でき

通訳ボランティアに初参加

堀江 アピラディーさん(45)

るように頑張りたい」と意気込む。

タイ・バンコク出身。現地の大学で日本語を学び、長崎大の交換留学生として



来日。同大に1年間通い、民間会社で秘書や通訳を務めた。飯塚市で育った夫と2005年から同市で暮らし、昨年10月からは九工大とタイの大学の国際交流を

人や自然の魅力伝える

手伝う。

大会には、タイから8人の選手がエントリー。「早く選手に会って、プレーを見たい」と声を弾ませる。大会事務局によると、これまでタイの選手とは英語を通じたコミュニケーションが中心で、「タイ語と日本語、どちらも堪能だから心強い」と期待する。

飯塚で暮らして12年。「筑豊弁で会話することもある」。選手には人の優しさや豊かな自然など飯塚の魅力を伝えたい。

(田中早紀)